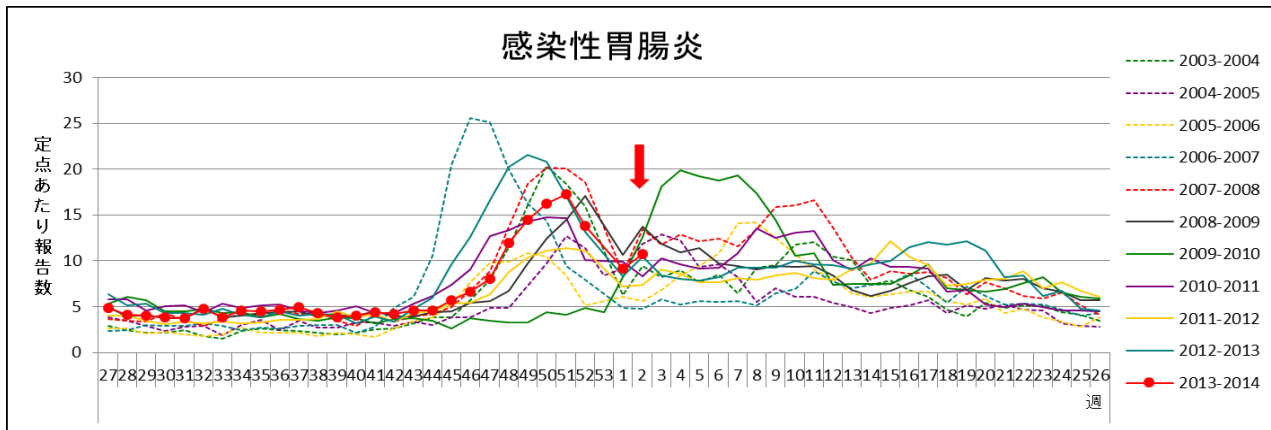


感染性胃腸炎情報 2014 年 第 2 週 (1 月 6 日 ~ 1 月 12 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 567 名（定点あたり 9.13 → 10.70 人）の発生がありました（53 定点医療機関報告）。

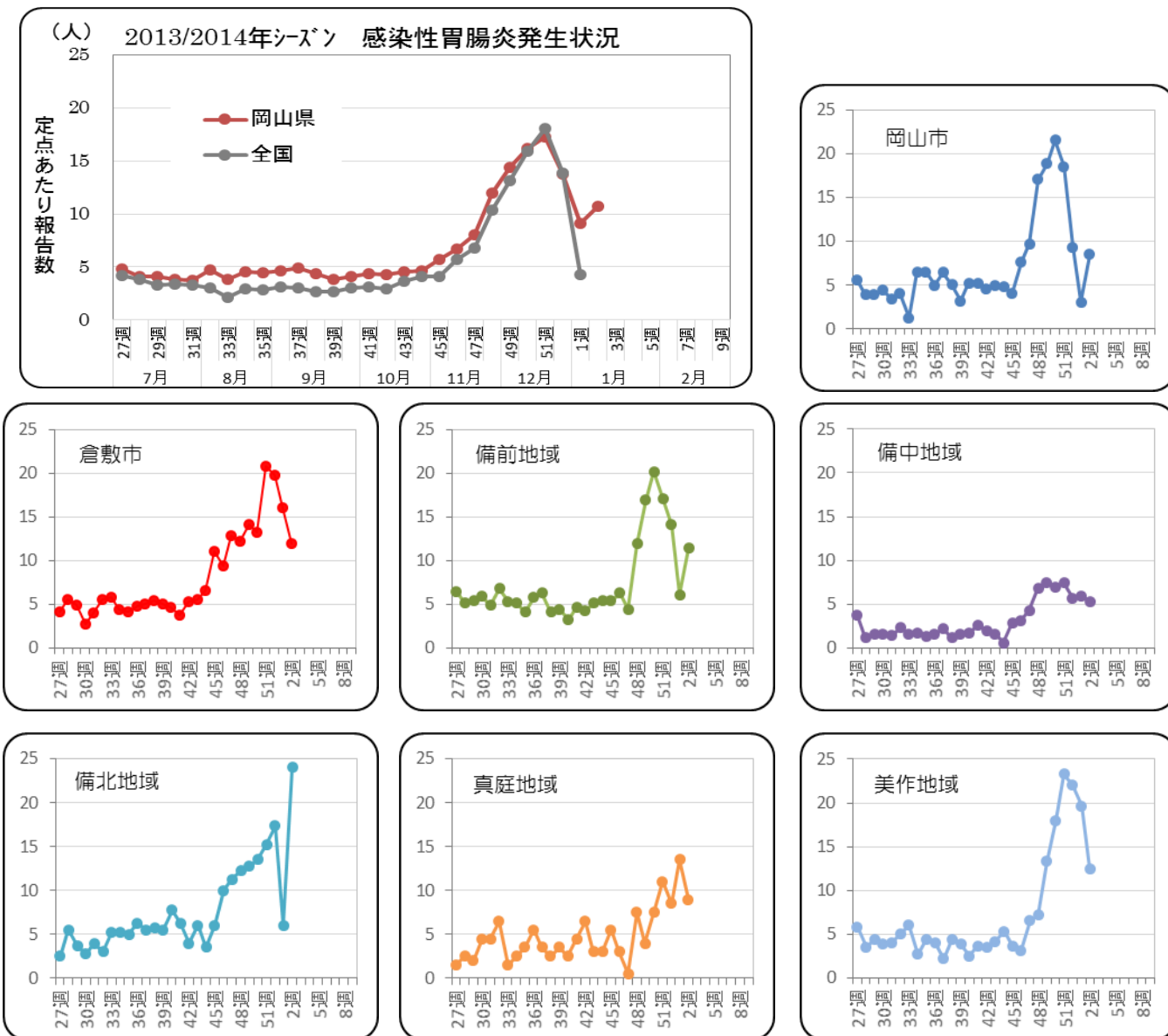


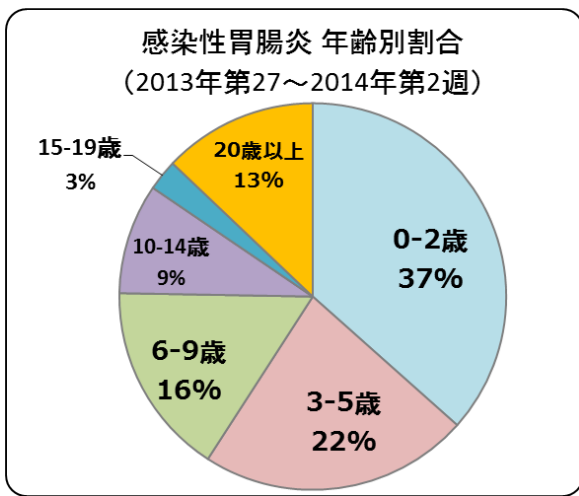
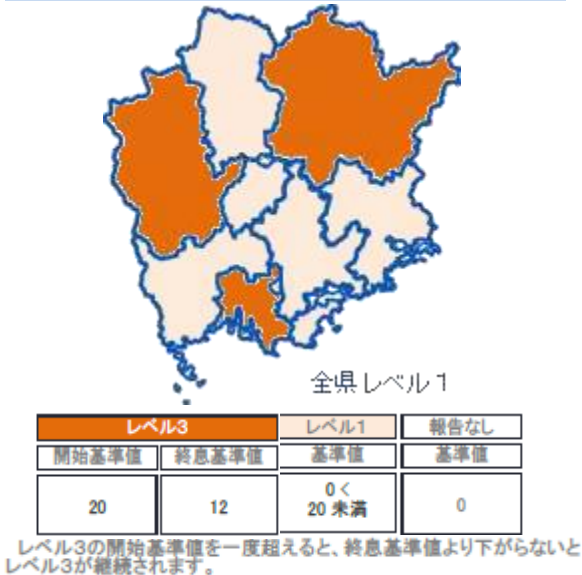
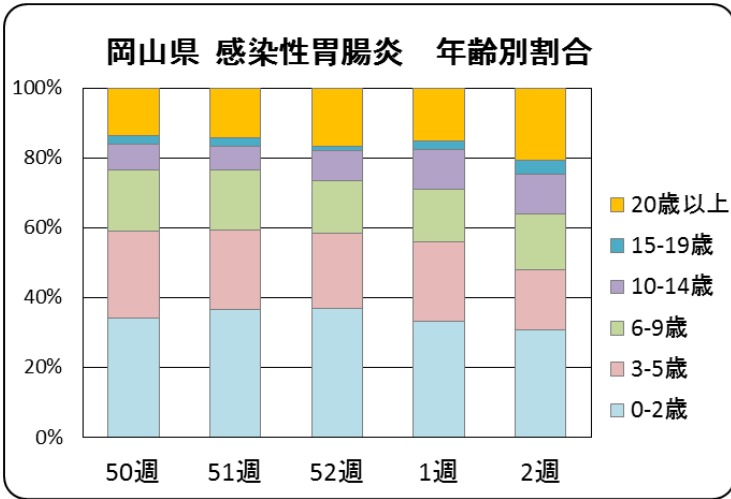
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で 567 名（定点あたり 9.13 → 10.70 人）の発生があり、前週より増加しました。12 月頃に比べて県全体としての患者は減少したものの、依然として多くの患者が報告されています。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

[○ノロウイルスに関する Q&A について \(厚生労働省\)](#)

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、備北地域 (24.00 人)、美作地域 (12.50 人)、倉敷市 (12.00 人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。報告数が大きく増加した備北地域 (6.00 → 24.00 人)は新たに発生レベル3になり、発生レベル3の地域は倉敷市、美作地域、備北地域となりました。

年齢別累計では、5歳以下の乳幼児が全体の59%を占めています。

◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

